

横須賀市における COVID-19 流行の記述疫学的検討

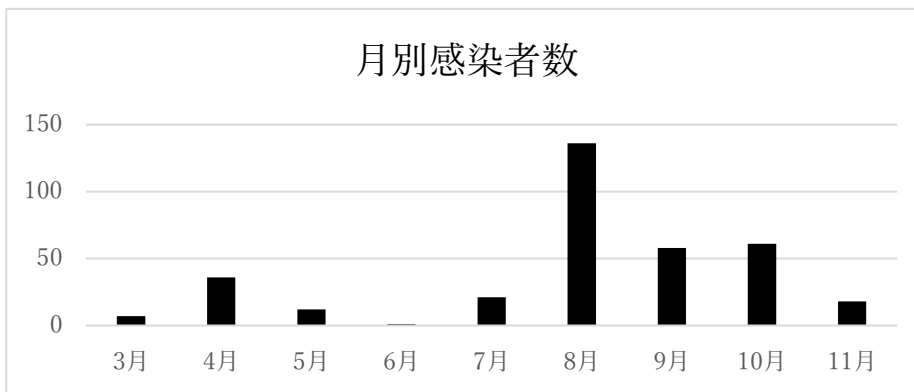
○土田 賢一（横須賀市保健所）

【目的】横須賀市内の COVID-19 流行は、2020 年 3 月 15 日に第一例目の発生報告を受理して以降、1 か月程度報告のない期間もあったが、その後一定数の報告が続いている。今後の感染対策に資することを目的に、横須賀市における COVID-19 流行の中間的な記述疫学的検討を行った。

【方法】横須賀市における COVID-19 感染者は、3 月 15 日から 6 月 1 日まで 4 月初旬をピークとする発生報告があった。その後、33 日に亘って報告はなかったが、7 月 4 日に再度発生報告があり現在まで続いている。3 月 15 日から 11 月 9 日までに報告があった 349 名において、年齢、感染判明時の症状、職業、勤務地、推定感染経路に関して記述疫学的検討を行った。

【結果】年代別の占める割合は、10 歳未満 4.6%、10 代 3.1%、20 代 19.4%、30 代 13.4%、40 代 12.0%、50 代 12.0%、60 代 8.6%、70 代 15.7%、80 代 8.9%、90 代以上 2.3%と 20 代が最も多かった。月別の報告数は 3 月 7 名、4 月 36 名、5 月 12 名、6 月 1 名、7 月 21 名、8 月 136 名、9 月 58 名、10 月 61 名、11 月 18 名と 8 月が最も多かった。20 代が占める割合は 7 月の 47.6%がピークで、以降減少し 11 月は 11.1%であった。一方、70 歳以上の占める割合は、7 月 9.5%、8 月 23.5%、9 月 32.8%、10 月 34.4%、11 月 35.0%と 7 月以降増加傾向であった。年代別の死亡率は、40 代以下 0.0%、50 代 2.4%、60 代 0.0%、70 代 7.3%、80 代 22.6%、90 代以上 25.0%と高齢になるほど高かった。転帰は、退院 189 名、宿泊施設退所 91 名、自宅療養終了 26 名、死亡 14 名であった（11 月 9 日現在）。感染判明時の症状は、軽症 228 名、中等症 10 名、重症 3 名、死亡 1 名、無症状 96 名であった。職業は会社員 72 名、医療従事者 36 名、自営業 27 名、パート・アルバイト 20 名、無職 103 名、その他 91 名であった。勤務地は市内 121 名、県内 57 名、県外 33 名、無職等 138 名であった。濃厚接触者の推定感染経路は陽性者と会食 35 名、同居家族に陽性者 51 名、医療・介護施設に陽性者 25 名、職場に陽性者 26 名であった。

【考察】当該期間において、20 代の占める割合が高いことや、高齢になるほど死亡率が高くなる傾向は全国と同様であった。本市において 7 月以降 70 歳以上の占める割合が増加傾向にある。当初は若年者の感染者が増加し、その後高齢者が増加する傾向がみられた。感染判明時の症状は、軽症、無症状が 95.8%を占めている。横須賀市は 4 月 24 日に集合検査所を設置するなど、早期より検査を拡大し早期発見に努めたことも影響しているかもしれない。職業別の医療従事者の数には、クラスター対応などにより検査を受ける機会が多いことが影響している可能性が考えられた。勤務地は市外が 42.7%であり、平成 27 年国勢調査の常住する就業者通学者の従業地通学地割合での 38.8%より多かった。濃厚接触者の推定感染経路は、同居家族や会食が多く、感染予防が困難な場面があることが推察された。



※11 月は 9 日まで